

令和7年度一般選抜入試

『歴史総合、世界史探究』出題意図

1. 出題の基本方針

本問題は、高等学校「歴史総合」および「世界史探究」で学習する基礎的・基本的事項の定着を確認するとともに、資料の読解力、歴史的事象を多角的に把握する力、因果関係を踏まえて論理的に考察する力を測定することを目的とする。

単なる暗記ではなく、歴史的な事象を時代的背景・地域的文脈のなかで理解し、現代社会とのつながりを意識して説明できるかどうかを重視した。

2. 出題範囲とテーマ

・古代から近現代までの世界史的通史の理解

アケメネス朝とポリスの戦い、16世紀のハプスブルク家と宗教改革、19世紀後半の国民国家形成、第一次世界大戦とその後の国際秩序、ファシズムの台頭、第二次世界大戦前後の世界情勢など、主要な時代・地域を網羅した。

・近現代史の比重強化

大学教育で必要となる国際関係史・政治史の基礎知識を確認するため、第一次世界大戦後の国際連盟、ヴェルサイユ体制、ナチズムとファシズム、冷戦期の国際秩序などを重点的に出題。

・日本と世界の接点

近代以降の日本と世界との関係（戦間期の外交、戦後国際秩序）を視野に入れた設問を配置し、グローバルな視点を育成。

3. 設問形式とねらい

・資料読解問題

教科書レベルの文章や図表、年表などを提示し、語句補充・選択・正誤判定を組み合わせることで、史資料をもとに論理的に事象を再構成する力を問う。

・通史的知識確認

世界史の時代区分や基本的な人名・地名・事件名の理解を確認する問題を配し、受験生の基礎学力を確認。

・思考力・判断力の評価

近似した選択肢や複数の史実を比較させる問題により、単なる記憶ではなく史実の関連付けや因果関係の理解を測定。